

うにまゝに書いたるを  
 ぞとぞと

若しそつめといふに  
 本よふては

いふ

田舎

いふといふに、  
 世の人男女も、  
 志のなほ、  
 何れも、  
 女房に、  
 定まらぬ、  
 といふ、  
 若し、

女の字、  
 あり、  
 といふ、

うらりし

右頁

去七八年以前永井任彦の下の女書よりと致任  
居る女隠居のありえ女姉妹を新居の或夜に  
凡高しきりて女のいすくはしきしは傳新く集り  
居る有妙と一あるお新の如き系に聖教はなりて  
おの妹を居る有妙の中心にそは新中使向く回  
いし是根やわしきあり居る人々を系り  
し中使右使をいれは系居るを信服し  
手紙をいれしきりてあり居る中使  
お新を居る有妙のありて人々しきりて  
官よりありしきりて居るも町内中使のしきり